

Model United Nations

大妻中学高等学校 & 渋谷教育学園渋谷中学高等学校 共催

「国連防災世界会議」活動報告

37校 約400名の中高生が模擬国連に参加！



English Ver.

模擬国連 - 「中高生の学びが世界を変える」と信じて

「仙台防災枠組」というものを知っていますか。この日本の都市名を銘打った防災枠組は日本が中心となって策定した国際枠組です。しかし、私たちは、この会議に臨むまでこの枠組の存在すら知りませんでした。だからこそ、未来を担う私たちがこの課題に関心を持ち、真剣に議論をすることが大切なのではないか、そして私たちの活動によって仙台防災枠組をより広く知ってもらえることができるのではないかと、そう思い、「中高生の学びが世界を変える」というスローガンのもと、会議を開催いたしました。おかげさまで多くの方のご支援をいただき、有意義な会議となりました。皆様に感謝の意を込めて、本紙面にて会議のご報告をいたします。

模擬国連ガイドマップ

私たちが作成したガイドマップが模擬国連の世界をご案内いたします。



日時： 2023年12月26日
場所： 大妻女子大学
参加者数： 37校・約400名
議場： 第4回 国連防災世界会議
議題： 災害リスクの軽減とレジリエンスの構築



160名以上の中学生も参加をしました

「レジリエンスの構築」に向けた3つのゴール

- Goal 1 すべての国が仙台防災枠組を実行し、災害に対するレジリエンスを高める。
- Goal 2 女性や災害弱者が取り残されることのないインクルーシブな防災を高める。
- Goal 3 気候変動対策との関連性を担保しながら、途上国への支援・協力を拡充させる。

会議では、3つのゴールを設定しました。単に支援やその方法論について話し合うだけであれば、「レジリエンスの構築」「仙台防災枠組の推進」という大きなミッションに向かって中高生が会議に臨む意味がありません。本質的な国連防災の会議にするために、各国がどのような災害リスクや課題を抱えており、それらを解決するために私たちはなぜ、何をすべきなのか、という本質的かつ包括的な議論を中高生の視点から展開しました。



議題解説書（Background Guide）の作成

模擬国連では、議題に対する理解を深めるために Background Guide（略して BG）と呼ばれる議題解説書が参加者全体に共有されます。論点や背景、課題の分析などが解説されているものです。今会議では、高校1年生のプロジェクトメンバーが3か月かけてオリジナルの議題解説書を執筆いたしました。防災の課題を網羅した63ページの力作で、国連防災機関（UNDRR）等の専門分野の皆様にも高い評価をいただきました。



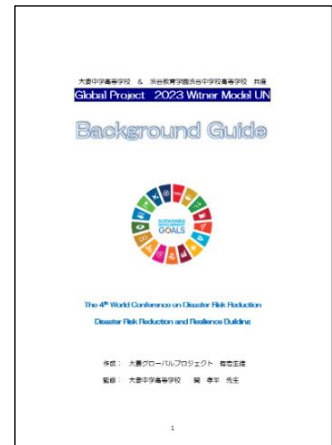
プロジェクトミーティング

BG チーム 3か月の道のり

私たちが作成を目指したのは「中高生でも大学教養レベルまで防災の課題を学ぶことのできる1冊」です。そうは言っても私たちも何も分からず、先生と一緒に毎週議論をし、仙台防災枠組に関する記事やUNDRRの資料などを読むことから始めました。最初はまさに手探りで、これが模擬国連として成立するの不安になることもありましたが、それでも、皆で諸課題を分類し、3つのゴールを設定し、データを収集や課題分析をして文章にまとめていきました。

BG作成の過程で学んだことは、いかに防災が複雑な課題であるかということです。防災には、気候変動、ジェンダー問題、障がい者対応、貧困、都市開発といったありとあらゆる課題が密接に関係していたのです。日本に住み、災害を理解していると思っていた私たちが知らないことがたくさんありました。その複雑性に驚くとともに、私たちの発見した課題を読者にも知ってもらいたいという思いが強くなりました。そこから私たちは、BGを読んだ人に分かりやすく伝え、楽しく学んでもらえるようにはどうすればよいか、会議以外にもこの課題に向き合ってもらうにはどのような工夫が必要なのか、試行錯誤を続けました。

会議が終わり、多くの参加者からBGに対するお褒めの言葉をいただきました。BGの作成を通して皆さんと一緒に学びを深められたのだと改めて達成感と喜びを感じました。たくさんの時間と労力をかけて作成したこのBGをもとに、当日皆さんと1つの会議を作り、成果として残せたことは本当に嬉しく、光栄なことです。



議題解説書は上記QRコードよりご覧いただけます（デジタルデータの場合はQRコードをクリックしていただければご覧いただけます）。

Special Thanks

各所に議題解説書を共有させていただき、この会議に対する思いをお伝えしたところ、多くの皆さまから応援の声とお力添えをいただきました。オープニングセッションでは、UNDRR駐日代表の松岡様、東北大学災害科学国際研究所の小野教授がメッセージを送っていただきました。また、内閣府防災担当の村上参事官とそのチームの皆様、JICA防災グループ長の細川様にご見学いただき、最終日には講評をいただきました。実際に国際防災戦略を牽引される皆様に私たちの活動をお伝えでき、今後の活動へのエネルギーと刺激になりました。心より感謝申し上げます。



会議レポート 会議監督の視点より

会議冒頭から各国が精力的に声を掛け合い、主に先進国、新興国、発展途上国といったグループを形成し、「支援」と「気候変動対策」を論点の軸に据えて話し合いを始めました。先進国はEUとEU以外に分かれ、途上国はアジア地域とアフリカ・中南米地域に分かれました。さらに、新興国はいわゆるBRICSや東南アジアが一緒になって議論をしていました。グループの規模が大きい途上国のグループでは、多くの国の政策を理解するために、付箋を使うなどの工夫も見受けられました。



今会議の主な対立軸は「支援」です。途上国は、自国の力だけでは十分に災害に対するレジリエンスを高めることができないため、先進国に支援を求めたいと考えます。一方、先進国はすでに防災以外の分野で支援を行っており、無制限の支援には賛同できません。どの国も防災の主流化に向けた方向性については態度が一致していたものの、やはりこのような対立は明確で、資金支援、技術支援に関する具体的な政策については意見の違いも見られました。また、気候変動については、途上国の中でもスタンスの違いがあり、先進国に厳しく対応を求めるグループと先進国との歩み寄りを考えるグループに分かれました。しかしながら、これらの話題に集中するあまり、初日は3つのゴールを達成するための包括的な話し合いは少なかったように感じました。各グループ間の外交も見られましたが、グループ内での意見の調整に時間がかかっていたようです。初日の最後には、各議場とも4~6本のワーキングペーパーが提出されました。

2日目は、ワーキングペーパーに関する質疑応答、そして初の試みである予備投票が行われました。各ワーキングペーパーに対して投票を行い、その後のコンセンサス合意に向けて全体で意見交換を行ったのです。それらを経て、より多くの大使が外交を活発に行い、午後にはグループ同士のコンバイン交渉が行われました。それにより、支援国と被支援国という大きな2つのグループにまとまり、決議案の文言や細かい条件の交渉をギリギリまで行い、最後には2本の決議案が提出され、両方ともコンセンサス投票で正式に採択されました。



～ このような決議案が採択されました ～

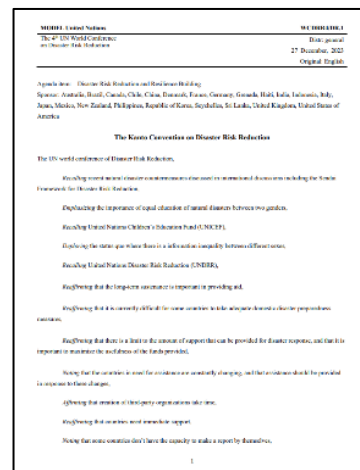
国際防災戦略を決めるこの重要な会議は、コンセンサス（全参加国の賛成）が決議案の採択条件でした。各国が立場や国益を対立させながらも、1つのゴールに向けて話し合い、採択された価値のある決議案となりました。



一般議場



日本語議場



会議を振り返って ～模擬国連を見つめ直そう～

大会事務局長 大妻高等学校 2年 月橋 美琴

私が初めて模擬国連に参加したのは中学3年生の冬です。担当国のリサーチに苦戦し、政策立案もままならず、会議に参加する前から途方に暮れていました。会議開始後も交渉をするにはほど遠く、自国の立場を説明することで精一杯でした。しかし、議論をしている生徒たちが皆活気に満ち溢れていることが私にとって刺激的でした。他者を説得することやコミュニケーションを図ることを心から楽しんでいる彼らを羨ましく感じ、気が付けば私は模擬国連の魅力に取り憑かれていました。

私たちは今会議を「模擬国連を見つめ直す会議」と位置付けて準備を進めてきました。模擬国連には公式大会も存在します。私も大会で受賞することを目標にしてきました。もちろん、賞を目指すことも大事です。しかし、それは私たちが模擬国連に取り組む本質ではありません。模擬国連を通し、社会課題に真剣に向き合うことで多くの「学び」を得ることができました。ニュースを新しい視点で理解したり、課題解決力の向上を図れたりするだけでなく、異文化理解やコミュニケーションなど、多くの力を伸ばすことができました。そして、何よりもたくさんの同志と出会い、ともに議論することの大切さや楽しさを知りました。今会議では、その原点に立ち返り、真の学びを追求し、国際課題に真剣に向き合うための会議を皆さんと一緒に作り上げたい、その思いのもとプロジェクトチームが一丸となって運営に努めてまいりました。

私たちは模擬国連のために学ぶのではなく、「学びを体現する模擬国連」を目指しています。模擬国連はあくまで国連の模擬でしかありません。しかし、会議の参加を通して互いの主張をぶつけ、お互いが納得できるまで議論し続けることで、それが後に世界平和へと繋がるのではないかと私たちは考えています。

模擬国連で話し合った平和を少しでも現実にも近づけるために、会議終了後に起こすアクションも重要です。残念なことに、会議5日後の2024年1月1日、能登半島地震が起きました。微力ではありますが、生徒会長を務める私は文化祭の収益を義援金として寄付しました。松岡様のご講演にもありましたが、中高生が主体的に行動を起こすことは重要です。小さな力でも私たち中高生ができることを模索し続けることが大きな成果を生み出すと信じています。

そして、この取り組みと想いを後輩に繋げていくことも私たちの使命です。今回の冬会議は高校2年生の私にとっては引退の会議でした。世界に目を向け、世界の中心を担うような中高生が増えるように、模擬国連を通して得た新しい景色を後輩に伝えることを意識してこの会議の運営に携わりました。また、会議には多くの中学生が参加しました。中学生でも2日間議論し続け、決議案を提出するという大きな結果を残します。また、地域を超えた他校とのネットワークがあるのも模擬国連の魅力の1つです。私たちの思いが校内だけでなく、全国区、そして世界に伝播し、模擬国連が発展していくことを願います。



議長団のメンバー。毎年、この2校と一緒に会議ができて楽しいです！！

活動報告ビデオ

実際の会議の様子を報告動画としてまとめました。緊迫感ある交渉の様子や実際にどのような議論をしていたのかをご覧ください。
(音楽が流れますのでご注意ください)

